

美濃金山城主の系譜

斎藤大納言

斎藤大納言正義は妙春とも称し、斎藤妙椿の系譜を継いで、可見・加茂地域を中心に権力を持ち、1537年(天文6)に烏峰城を築きました。斎藤大納言正義は、1548年(天文17)に久々利城で久々利氏に討たれました。



斎藤大納言正義画像 部分 (浄音寺所蔵)

森氏一族

1565年(永禄8)に織田信長から森可成に城が与えられました。可成は入城に際し、城の名を「金山城」に改称したといわれています。以降、長可・乱丸・忠政が城主となりました。



年(和暦)	できごと
一五三七(天文六)	斎藤大納言正義が烏峰城に入城。
一五六五(永禄八)	織田信長から森可成に烏峰城が与えられる。金山城に改称。
一五七〇(元亀元)	宇佐山城の戦いで可成死去。長可が金山城主となる。
一五八二(天正一〇)	長可が川中島に転封となり、弟の乱丸が城主となる。六月本能寺の変で乱丸が死去し、長可が再び城主となる。
一五八四(天正一二)	小牧・長久手の戦いで長可死去。弟の忠政が城主となる。
一六〇〇(慶長五)	忠政が川中島へ転封となり、犬山城主石川光吉領となる。
一六〇一(慶長六)頃	城が破却される。

※一五六六(明暦二)年、「金山村」から「兼山村」に改名されました。
城跡の名称は改名以前の「金山」を用いています。

可児市観光交流館

国史跡 美濃金山城跡

電車でのアクセス
明智駅(名鉄)からYAOバスに乗り換え

可児市役所 文化財課
〒509-0292 岐阜県可児市広見一丁目1番地
TEL 0574-62-1111

お問い合わせ先



美濃金山城跡の見所

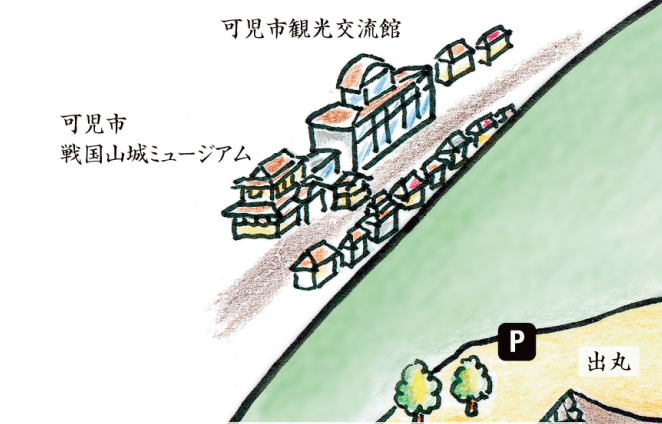
- ◆ 今に残る織豊系城郭の特徴
- ◆ 城の各所に張り巡らされた「石垣」
- ◆ 瓦葺屋根の建物があったことをあらわす「瓦」
- ◆ 建物を支えた「礎石」
- ◆ 土木工事技術の高さを示す、削られた「岩盤」
- ◆ 城の終わりを伝える「破城の痕跡」

出土遺物

国史跡 美濃金山城跡絵図

美濃金山城跡は、近隣の城や北を流れる木曾川、兼山のまちを見渡せる高所に築造されています。本丸跡の標高は276m、城下町とは約170mの比高差があります。平成25年に国の史跡に指定されました。

平成18年度から令和元年度にかけて9回の発掘調査をおこないました。これまでの調査で、天守や門に使用された瓦などの出土遺物や建物礎石が見つかりました。また、茶碗や素焼きの皿・すり鉢などの陶器や古銭、製鉄に使用されたと思われる羽口や石製の容器も出土しています。



礎石 …… 安定した建物を建てるため、柱の下に据えた石
虎口 …… 城の出入口
曲輪 …… 石垣等で囲まれた平坦な面で建物等があった場所

【登城のポイント】

- ◆ 危険なため、立ち入り禁止です。
- ◆ 山登りに適した格好で見学しましょう。(運動靴、タオル、水筒、夏季は虫除けスプレーなど)
- ◆ 石垣は崩れやすいので足をかけないようにしましょう。
- ◆ 出丸(P)から本丸(頂上)までの所要時間は約30分です。

1 三の丸

北・西・南の三方向に石垣が築かれていいます。礎石から建物があったことがわかります。岩盤を加工して虎口が造られています。

2 二の丸西面石垣

この石垣は加工していない石を積む野面積みという積み方で造られています。隙間に間詰め石が詰められています。

3 二の丸

礎石の形状から、渡り廊下のある建物があったと考えられます。南側と西側に石垣があります。

4 枡形虎口

三方向を石垣に囲まれた虎口で、門の礎石が見られます。左側が本柱の礎石、右側が控柱の礎石になります。

5 東腰曲輪／南腰曲輪／西腰曲輪

東腰曲輪は井戸跡があったといわれる場所です。ここでは破城の際に捨てたと思われる礎石や瓦が見られました。南腰曲輪、西腰曲輪では礎石が見つっています。

6 本丸

天守があったと想定される場所です。本丸を囲む斜面には石垣が見られ、南側に虎口があります。多くの礎石から御殿のような大きな建物があったと思われます。

7 左近屋敷

細野左近という武将の屋敷があったとされる場所です。北側に二段の石垣が築かれています。破城の際に石垣の天端(一番上端の石)の石や隅石を壊した状態が残っています。

8 米蔵跡

美濃金山城跡の米蔵があったといわれる場所です。北側に大きな石垣が見られます。この場所から三の丸へ登ったと思われます。

米蔵跡

東部曲輪

南部曲輪

西腰曲輪

三の丸北曲輪

枡形虎口

二の丸

二の丸西面石垣

三の丸

出丸

WC

蘭丸ふるさとの森(公園)

可児市観光交流館

可児市 戦国山城ミュージアム

県天然記念物 古城山のオウラジロノキ

第5版
©2020.Kani City